028 川端康成の弟子だった岸恵子の人と小説
評価されるべきその文学的才能

講座内容

岸恵子は川端康成原作の映画「雪国」に主演した後、川端を訪ね、「先生の弟子にしてください」と頼んだ。彼女は、実際、川端にいくつか原稿を見せて意見を求めている。彼女がイブ・シャンピとの出会いと別れを描いた『巴里の空はあかね雲』を新潮社から出したのは2003年。初めての本。その後、自叙伝、エッセイ集と次々に出版したが、本格的に小説を書き始めたのは70歳ころから。中でも『風は見ていた』という自伝的小説は評論家の大岡信さんに「美人女優のこの人が、文筆家としても一級であることを証明した。驚くべき人」と絶賛された。岸が60歳ころに出会った講師が、彼女の人と文学的才能を語る。

期　間	5月16日	受講料	2,500円
曜　日	土曜日	定　員	20名　※最少催行人数10名
時　間	13:30～15:00	会　場	関内アカデミック・リサーチセンター
回　数	1回	持ち物	筆記用具
教　材	講師が配布資料を用意します。		
備　考	●この講座は5月8日(金)までに中止の連絡がなければ開催となります。		

講座スケジュール

回数	日　程	内　　容
1	5月16日（土）	岸恵子の素顔と人生、そして小説「風は見ていた」を中心にその文学的才能について。

講師紹介

宮島 正洋(みやじま まさひろ)

元新潮社編集者　現アートデイズ編集長　慶應大学「三田文学会」常任理事

東京生まれ。1974年慶應義塾大学フランス文学科卒業。在学中より遠藤周作編集長の『三田文学』で編集者となり、卒業後新潮社に入社。その間、井伏鱒二、小林秀雄、大岡昇平、瀬戸内寂聴など戦後の大作家たちと出あう。新潮社を退社後、出版社アートデイズを設立し、代表取締役・編集長に就任。慶應大学出版会顧問、日本話し方センター学院長などを務め、現在、C・Wニコル著作権代理人、慶應大学「三田文学会」常任理事。